



「その人らしく、うまく楽しく生きる」生存権の保障のためには、人間らしい関わりが重要

松隈誠矢さんに インタビューしました！

東京大学大学院 教育学研究科
身体教育学コース研究員

●文・宮坂真耶（編集担当）



●宮坂：フードバンクに対して感じていることを教えてください。

■松隈：以前のフードバンクのイメージはただ『食品を受け渡す』というものでしたが、ケース会議に参加し、フードバンクのスタッフの話を聞いていると、そのイメージに収まらない利用者を**理解しようとする努力に驚きました**。家族や友人から孤立し、社会との繋がりを失ってしまった方を「ボランティアにおいでよ」と誘い、活躍の場も提供しているんですね。利用した人が今度はボランティアとして「助ける」側にもなれること貴重だと思います。**ボランティアに参加することで、社会の役に立ち、自分の価値を感じられる**。素晴らしいと思います。「社会に自分がいていいんだな」と感じられることは、様々な精神疾患の再発予防にも重要です。

●宮坂：人のためになる活動をするると自己有用感が生まれてくると思います。ボランティアできる場所は重要なんですね。

■松隈：精神疾患のある人の再発防止や社会復帰を目的とする「精神科デイケア（日帰りリハビリテーション）」では、**どうしても「支援者」「利用者」の立場に固定されがちです**。どうしてもできてしまうその「壁」ひとつが、とても大きい。

ボランティアは対等な立場で、社会とつながっている実感と、普通の人間関係を築けるのが強みですね。でも、食品支援をしながら、そういった社会経験をつめるような場の提供も行うとなると、フードバンクのスタッフの方々がパンクしてしまわないか心配です…。

●宮坂：そうですね。生活保護を利用していても、病気や孤立、金銭管理など様々な理由からフードバンクを利用する方がいて、全体の3割ほどになっています。行政のケースワーカーから、生活保護利用の方の支援依頼でよく連絡が来ますが、金銭的な支援の「その先」がなかなか難しい印象です。でも、全体の相談者数がすごく増えていて、すべてFBで受け止めるのは到底難しいです。

■松隈：「生存権」を保証するのは行政の役割。しかし、生活保護等の**制度は「この基準以下の人にはこういうサービス」ということが定められている**。ルールとして定め、サービスの提供はできるが、個人の価値観や主義・主張によりサポートはなかなか難しいのが現状。「こうしたら、うまく楽しく、充実した生活がしていける」というような「文化的な生活」の

(→P4に続く)



食事がつなぐ、
人間関係の強み
を感じています。

松隈誠矢さん
(東京大学大学院 研究員)

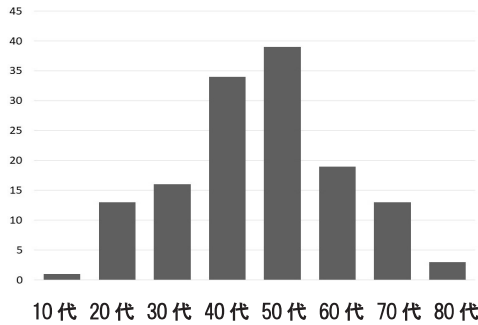


今月のSOS

FB 相談世帯数（食品提供回数）

6月 169世帯（支援212回）
7月 185世帯（支援257回）

FB 年代別（2023/6-7）新規利用 354 人



FB 主な利用理由（2023/6-7）*複数回答・総数 354 人



今月のSOSの一部

※ FB 利用者の状況を一部加工して抜粋掲載。

6/8 ● Y・T 女 40代・宇都宮市内。
昨年、脳梗塞発症。半身麻痺が残っている。現在は**傷病手当で生活**しているが、仕事を辞めたため支給金額が減り困窮。⇒パックご飯など調理不要の食品 7 kg 支援。

6/10 ● T・P 男 30代・宇都宮市内。
外国籍で、現在**難民申請中**。支援者のアパートに6人で共同生活。⇒米 3 kg 食品 15 kg 野菜 1 kg 支援。

6/13 ● E・M 男 50代・宇都宮市内。
20歳の時、職場での**パワハラ**で仕事を辞めてから37年間無職。母の年金(月8万円)で暮らしてきたがその**母も他界**。貯金が底をついた。⇒調理不要の食品 5 kg 支援。

6/14 ● K・M 男 30代・宇都宮市内。
刑務所を出てから住込みの仕事で転々していたが、一週間前に無職になってしまった。所持金なし。来週から**日払いの仕事**に就けるので、それまで食料がほしい。⇒米 1 kg 食品 5 kg 支援。

6/16 ● Y・K 男 20代・宇都宮市内。ネットで知り合ったひとまわり年上の彼女と暮らす。宇都宮で寮付きの仕事が見つかったので他県から引越してきた。**彼女は精神疾患**でドクターストップ。電子レンジ以外の調理器具無し。⇒パックご飯など 16 kg 支援。

6/24 ● Y・T 男 50代・宇都宮市内。
高校生の息子2人との3人暮らし。生活保護費とパート収入で生活している。次男の**入学に費用**がかかり食品を購入するお金がなくなってしまった。⇒米 6 kg 食品 5 kg 支援。

6/30 ● H・Y 男 60代・宇都宮市内。
派遣で働いていたが、**白内障**の手術後、傷口から出血し視力低下により**退職**。失業手当は就労不可のため支給されない。生活保護の申請をしてきた。⇒米3kg食品 3 kg 支援。

7/1 ● M.A 男 40代・宇都宮市内。
派遣で2年前から働いていた社員食堂が閉鎖のため失業。次の仕事を待っているが**仕事**が紹介されない。税金と車検費用でお金が無い。⇒米 3kg 食品 5kg 支援。

7/6 ● K.T 男 50代・宇都宮市内。
3年ほど**ホームレス生活**。所持金無く

1週間ほど食事していない。身寄りはなく頼れる知人もいない。⇒缶詰、飲料など 5 kg 支援。生活保護や宮ハローワークへ相談を勧めた。

7/8 ● T.S 女 30代・宇都宮市内。先月、夫と**離婚**。母と3人の子供を抱え養育費もなく困った。母の年金(月5万)と保育園でのパート代8万が収入源。児童扶養手当の申請をする。⇒米 6 kg 食品 13 kg 支援。

7/11 ● K.F 男 10代・宇都宮市内。
高校の時**いじめ**を受け中退。12月から一人暮らしをしていて、本日生活保護の申請に行ってきた。保護が決まったら精神科受診を勧められているので、社会復帰に向けて治療したい。⇒米 6 kg 食品 6 kg 支援。

7/11 ● K.M 女 50代・宇都宮市内。
母の介護のため退職し、母の年金だけで生活していたが昨年10月に他界。お金が無くなり先週市役所に相談に行ったところFBを紹介された。仕事は一昨日決まった。⇒食品 8 kg 支援。

7/28 ● Y.G 男 20代・宇都宮市内。
父が家の金を持って失踪してしまった。家賃5ヶ月滞納。宇都宮市へ相談したところFBを紹介された。⇒米 6 kg 食品 5 kg 支援。

SOSの途中 6人家族奮闘記①

家計を支えるのは父と娘

■外国ルーツの6人家族

2021年12月、食品配布会をきっかけに、時々FBに相談に来る小室あいり(仮名・当時23歳)さんは6人家族。父(当時56歳)は日本人とペルー人のハーフ、母はペルー人。両親ともに在留資格は永住者。とも働きで4人の子どもを育ててきた。あいりさんには兄(当時25歳)と、高校、中学に通う2人の妹がいる。あいりさんは、となり町で保育士として働いている。兄は喘息の持病があり体調のよいときにバイトをしている。父はうつ病の通院加療をしつつ、長年溶接工として工場勤めをしている。

■母親のがん、兄の体調不良…家計厳しく

FBを利用したきっかけは、母親(当時53歳)が、ガンを発症してしまった。また兄の喘息が増悪し、母、兄ともしばらく働けなくなった。そのため家族を支える働き手が父親と自分(あいりさん)の半分となってしまい家計が厳しくなってしまう、と話してくれた。特に母親の医療費負担が大きかった。社会福祉協議会の福祉資金



小澤勇治●本会職員

の貸付を受けられそうだったので、まずは病院の医療ソーシャルワーカー(MSW)に、医療費の支払いや療養の疑問などの相談に乗ってもらうよう促した。

■母親の余命宣告、そして看取り

9ヶ月後。「入院中の母親が余命2～3ヶ月と宣告を受けた」と訪ねてきた。2日後退院予定で、明日病院で相談予定とのこと。病院医療とは違った、地域の診療所医師や看護師を中心とした看取り目的の在宅医療の内容を説明した。MSWに詳しく聴いてみるようにすすめた。該当地域包括支援センターには、家族へのバックアップを電話にてお願いしておいた。

年が明け2023年1月来所したときは、いろいろと話をしてくれた。病院で往診体制を取ってくれて、3ヶ月弱の自宅療養の末、母親を家族全員で看取った。(次号へ続く)



FBでたすかりました

夫からのDVで、着の身着のまま子どもを連れて別居。「ここまでなんとか来られた」

田野 佳恵さん(仮名46歳)

夫からの精神的DVがひどくて、数カ月前から子ども2人を連れて別居していました。夫は離婚に応じてくれず、住んでいるところも知られないようにしながらの生活。パートをしていますが、貯金と合わせてもそろそろ生活できなくなる、というときにネットでフードバンクを知りました。宇都宮にこんなところがあるなんて知らなかったです。

3回ほど利用させてもらっているうち、離婚が成立しました。これからひとり親の手続きをします。まだ不安定な生活は続きますが、ここまでなんとか来られたから、もうちょっと頑張ってみます。ありがとうございました。



(→P1 続き) 保障までにはいかず、民間の活動がフォローしているのだと感じます。しかし、関心するとともに、やはり一番下を守る役割は行政にあると思います。「文化的な生活」の支援があってこそ「生存権」の保障と言えるのではないのでしょうか。

●宮坂:一人ひとりに時間を惜しまず寄り添えることは、民間の強みですね。最後に、フードバンクに一言お願いします。

<お話を聞いて…>精神疾患に関心があり取材させていただいた。松隈さんによると「精神疾患の診断には『本人たちには修正ができない』という点が必ず見られるということを知ってほしい」とのことだ。また「自分から助けを求められるようになる」ことが精神疾患の治療のひとつのゴール、だという。FBにも受診の有無にかかわらず、精神的な困難がある人が来所する。インタビュー中に「理解しようとする努力」という言葉があったが、「しようとする」という部分がポイントであると感じた。そもそも、どうして生きているだけで素晴らしいのに、こんなに苦しい思いにならないといけないのだろう?ぜひ、ともに考えたい。(取材:宮坂)

ボランティアのつぶやき

人生で初めて 目標ができた。

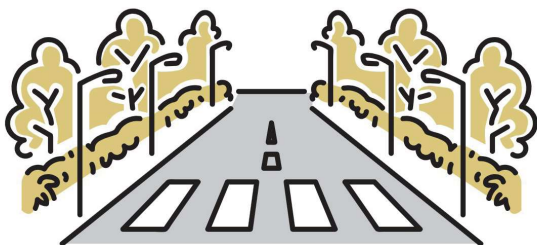
野澤 潤さん
(48歳)

「自分も何かの役にたてれば」という気持ちでボランティアを始めました。もともとは食品をもらいに来るだけでしたが、「ボランティアもあるよ」と誘われたのがきっかけです。家にいても時間を持て余しているので、最近は週に3回くらい来ています。

自分はアルコール中毒になった時期が何度かあります。ずっと実家に住んでいて、今はもう70歳過ぎになる両親の世話になってきました。仕事もできないし、やることもないと不安がのしかかってきて、酒を飲む日々が続いていました。不安を消すために飲んでいました。

これまでは「なるようになる」という考えで、あまり先のことを考えないで生きてきました。でも、今回アルコール中毒がきっかけで思いを改める機会があり、初めて目標ができました。それは、20年前に離れた「子どものために生きる」ことです。

目標を口にするのは簡単ですが、行動するのはなかなか難しい。でも、目標を立てるからには達成しないと人生もったいない気がしています。



■松隈:現在4人に1人が、人生のうち1度は精神疾患になると言われています。今後、より人間関係が薄まっていくと、精神疾患も増えていくと思います。FBの活動から、**食事がつなく人間関係の強み**を感じています。「支援者」「利用者」というもので隔てず、人間関係を築ける場所であってほしいです。**人間らしく、NPOらしく**、これからも活動していただければと思います。(終わり)

Charity Walk 60km
フードバンクの助け合いが希望のタネになる

ここでは誰もがヒーロー!

チャリティウォーク60は、フードバンク活動を応援するためのチャリティイベント。助け合いの心でつながって、みんなで歩こう。あなたのチャレンジが誰かの命をつなぐ。果てなく先にあるゴールだって、目指して歩めばいつかはたどり着く。さあ、一緒に希望を目指して歩き出そう!

黒磯コース 21km	2023年 9月30日(土)	9:00~16:00 時頃
日光コース 19.5km	2023年 10月1日(日)	9:00~16:00 時頃
宇都宮コース 17.5km	2023年 10月7日(土)	9:00~16:00 時頃

イベントの詳細・お申し込み
寄付の受付はこちらから <https://tochicomi.org/cw567/>

参加者 寄付者 ボランティア 募集!

フードバンクの助け合いが、
希望のタネになる。
第11回チャリティウォーク
参加者&寄付募集中!



「もったいない」を「ありがとう」に。
会員を大募集中!
ボランティアも!

◆会費(年間)

- ◎ 正会員 12,000円
- ◎ 賛助会員 3,000円
- ◎ 団体会員 30,000円
- ◎ 学生サポーター 1,000円

会費・寄付はこちら ※匿名希望の方はご連絡ください

■銀行

栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399
名義/特定非営利活動法人フードバンクうつのみや 理事徳山篤
※領収書発行のため、メールか電話で、氏名と連絡先をご一報ください。

■郵便局

宇都宮 00260-2-90882
特定非営利活動法人フードバンクうつのみや

■WEBサイトから

クレジットカードでの
ご寄付もできます。

